

令和7年度 地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業  
「子どもゆめ基金」を活用した体験活動拡充に向けた研修会  
～ふくおかの子供達に“体験”を～ 報告書

1. 趣 旨 福岡県内の体験活動を拡充させるため、県内の国公立施設が主体となって、地域で活動する団体やNPO、草の根団体等に体験活動の重要性を改めて理解していただくとともに、子どもゆめ基金助成金の制度や申請についての理解を図る。  
また、経済的な困窮等による「体験格差」を踏まえ、県内の母子寡婦協議会や児童養護施設等に子どもゆめ基金助成金を周知し、より多くの子供達に体験の機会を提供することを図る。
2. 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立夜須高原青少年自然の家  
企画・運営:福岡県「体験の風をおこそう」運動推進事業実行委員会  
・福岡県立社会教育総合センター ・福岡県立英彦山青年の家  
・福岡県立少年自然の家「玄海の家」
3. 後 援 福岡県教育委員会
4. 開 催 日 第1回 令和7年9月20日(土) 13:30~16:30  
第2回 令和7年9月21日(日) 13:30~16:30
5. 会 場 第1回 八幡西生涯学習総合センター  
(北九州市八幡西区黒崎3丁目15-3コムシティ2階)  
第2回 福岡市NPO・ボランティア交流センターあすみん  
(福岡市中央区今泉1丁目19-22天神クラス4階)
6. 対 象 子供の健全育成を目的に体験活動及びその振興に取り組む団体  
(公益社団法人や公益財団法人、NPO法人、法人格を有しない地域のグループ等)  
児童養護施設や母子生活支援施設、母子寡婦福祉団体協議会 等
7. 参 加 者 第1回 3団体 3名  
第2回 15団体 16名
8. 当日の様子



【助成金についての説明】



【県内4施設PR】



【団体交流】



【個別相談】

## 9. 感想

### ●第1回(北九州会場)

- ・動画に加えて口頭で説明していただき分かりやすかった。
- ・他の参加者の質問が聞けて良かった。
- ・採択された経験のある団体の主催者に申請についての体験を聞くことができたり質問できる場があると良い。

### ●第2回(福岡会場)

- ・子どもゆめ基金の申請ポイントが分かりやすかった。
- ・パワーポイントの説明の際に冊子の何ページに言及しているのか説明してほしい。
- ・(申請に関する説明、個別相談について)一番聞きかたかった部分の説明が短く残念だった。
- ・(申請に関する説明、個別相談について)時間が短すぎる。団体交流や施設紹介は不要。別枠でしてほしい。
- ・最初のアイスブレイクに時間がかかってしまったのが残念だった。
- ・採択された経験のある団体と初めての団体で分けて説明会を開催してほしい。

## 10. 成果

○Instagram コラボ投稿(県立青少年教育施設3施設、北九州市立3施設)の活用や青少年関係団体(タカミヤ環境ミュージアム、地域づくりネットワーク福岡県協議会)への広報協力依頼により多くの団体に研修会の広報をおこなうことができ、福岡会場では15団体と多くの団体に本研修会に参加してもらうことができた。

○福岡県内の国公立青少年教育施設4施設のPRを行うことで、国公立青少年教育施設を活用した福岡県内の体験活動拡充に寄与することができた。

また、当所においては本研修会後、助成団体からの利用の申込を1件獲得することができた。

○参加団体の団体交流を行ったことで、福岡県内で活動する青少年関係団体の繋がりを作ることが出来た。

(第1回は参加団体数少数のため、団体交流は中止とした。)

## 11. 課題

○第2回の福岡会場では、多くの団体の参加があったのに対して、第1回の北九州会場では少数の参加団体であったため、次年度以降の開催の際は開催地や広報先について検討を行う必要がある。

○第2回の福岡会場では団体交流の時間が、当初の計画よりも時間を要し、ゆめ基金助成金の説明についての質疑応答や個別相談の時間が予定より短くなってしまった。

次年度以降の開催では、「団体交流や施設PR」と「子どもゆめ基金助成金についての説明、個別相談」を分けて二部制で開催するなど、ゆめ基金助成金の説明や個別相談の時間を十分に確保できるよう企画する必要がある。

○本研修会に参加した団体の感想では「採択された経験のある団体と初めての団体で分けて説明会を開催してほしい」という感想がある一方で、「採択された経験のある団体の主催者に申請についての体験を聞くことができたり質問できる場があると良い」との感想もあり、子どもゆめ基金助成金の申請や採択の経験の有無によって研修会に対するニーズが異なっていた。

次年度以降の開催では、申請経験のない団体向けの研修会と申請や採択経験のある団体向けの研修会をそれぞれ企画するなど多様な団体のニーズに応えられるような研修会を企画する必要があると考える。